

「打つ」「打たない」は
自分で決める。

◆
No14/ 2025.3

毎月 15 日配信
年間購読料 3 6 0 0 円 (PDF 版)
郵送・紙版 5 4 0 0 円

◆連絡先◆

T 6 0 6 - 8 1 8 6

京都市左京区一乗寺南大丸町 9 - 2 0 3 ロシナンテ社

電話・FAX 0 7 5 (4 0 6) 7 7 9 1

e-mail shikatasatoshi@gmail.com

ワクチントーク全国 2024

コロナ禍とはなんだったのか ③終 この 4 年間を振り返って

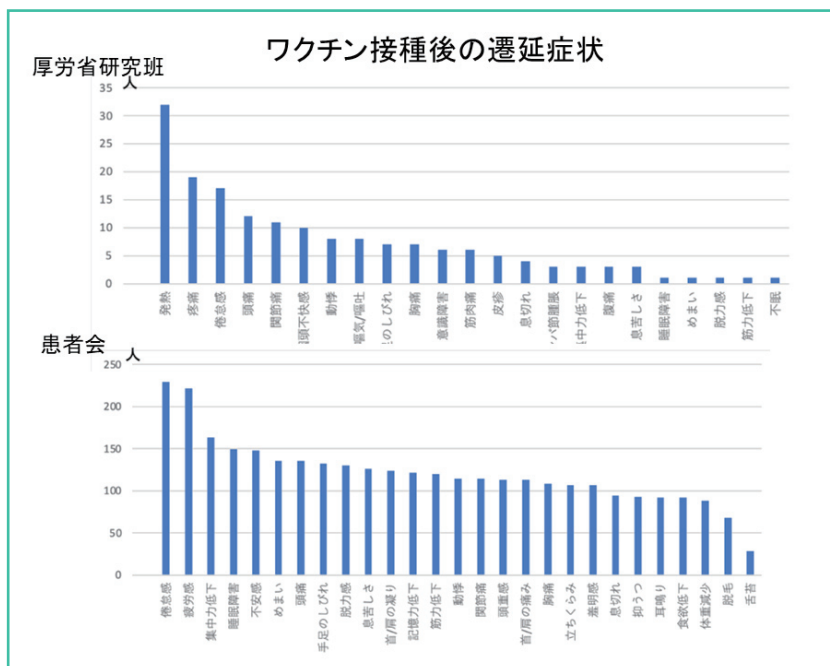
小島勢二さん (名古屋大学名誉教授・小児科医)

中・高校生におけるコロナワクチン後遺症の実態

コロナワクチンの後遺症は成人だけではなくて中・高生にとっても大きな問題です。日本小児科学会誌に、小児感染症専門医グループが 2024 年の 4 月号に、中・高校性におけるコロナワクチン後遺症の実態という論文を発表しました。

患者の会もほとんど同じような調査を実施しています。対象とした人数も 46 人、44 人とほぼ同じです。小児感染症専門医のグループの研究では、頭痛、倦怠感、発熱などの遷延症状が多く見られました。それに対して、患者の会のアンケートで多く見られたのも、倦怠感、疲労感、頭痛で変わりません。

専門医グループの論文では、症状の持続期間は、1 週間から 17 カ月、平均 5.2 カ月で、3 分の 1 に、改善が見られました。ところが、患者会のアンケートで



これらの言葉は、国がコロナワクチンの後遺症はないとしていることで、如何に現場が混乱しているのかを示しています。大変な思いをしている家族が多いことがよく分かります。

日本におけるコロナ感染対策の検証

コロナウイルス感染症対策分科会の会長として、日本の感染対策を主導した尾身茂先生が、この4年を振り返って「1100日間の葛藤」という本を出しました。尾身先生は、名古屋にも来られましたが、全国を廻って、講演会を開いています。講演会では、「コロナのパンデミックが始まった頃、緊急事態宣言を提言して行動制限を行った。そのおかげで日本は諸外国に比べて死者数を低く抑えることができた。」と自負した内容を話しているようです。

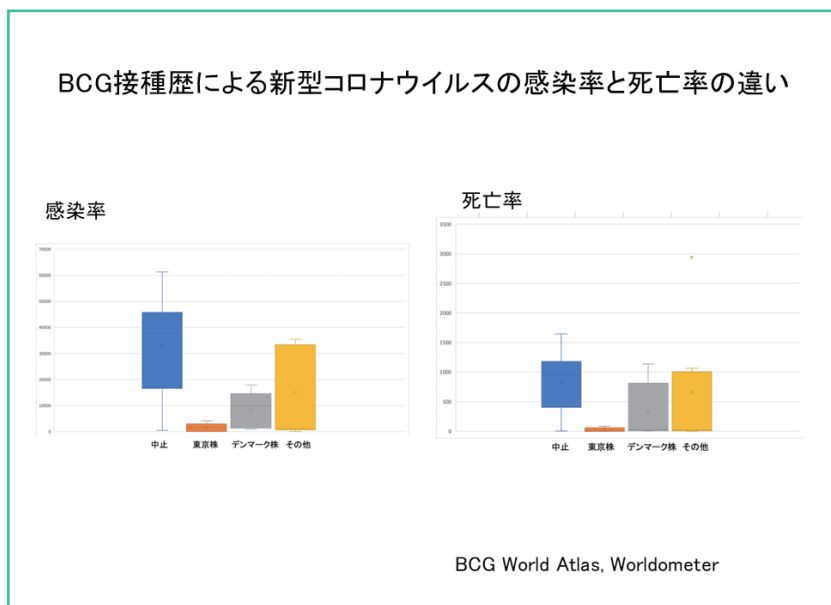
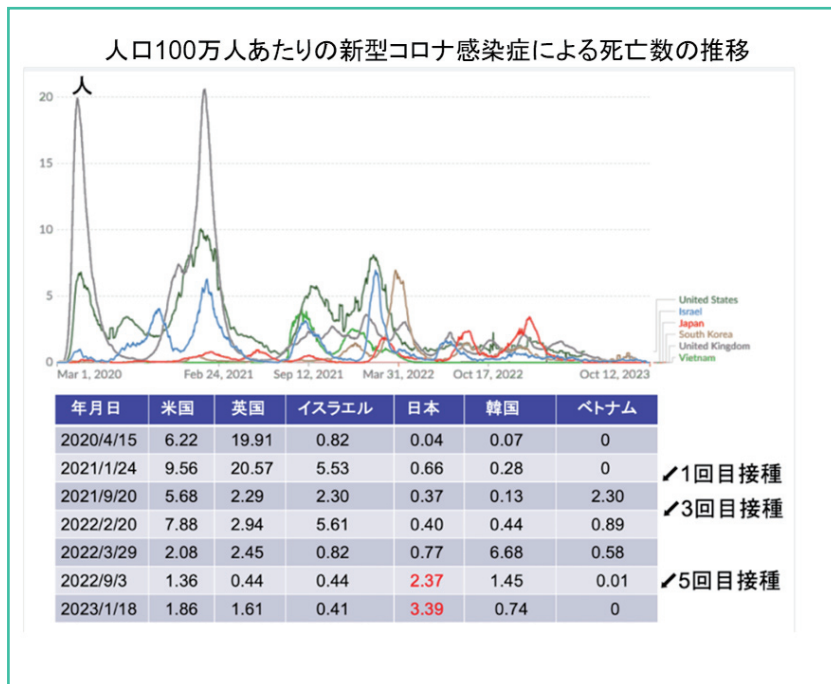
よく考えれば、パンデミックが始まった頃、諸外国はロックダウンをしたのです。緊急事態宣言どころではありません。それでも、アメリカやヨーロッパ諸国の死者は日本の100倍以上です。どう考えても、尾身先生の言っていることが正しいとは思えません。

この4年間の人口100万人あたりのコロナ感染症による死亡数の推移です。2020年の4月、まだワクチンを打つ前です。この時、人口100万人あたりの死亡数は、アメリカが6.2、イギリスが19.9、日本は0.04でした。実に、日本はイギリスの500分の1の死亡率でした。日本だけではなく、韓国も0.07、ベトナムはゼロでした。

ところが、ワクチン接種後の2022年9月になると、日本はアメリカやイギリスを凌いで、世界で一番人口100万人あたりの死亡数が多い国になりました。

2023年に発表された論文の内容です。ワクチンには生ワクチンと死菌ワクチン（不活化ワクチン）の2種類がありますが、生ワクチンの代表的なものがBCGです。BCGは打つと免疫全体がトレーニングされるので、標的となる結核だけでなく、他の病原菌も予防できることが分かってきました。

それに対して死菌ワクチン、もちろんコロナワクチンも含まれますが、標的にする病原体は予防することができるのですが、それ以外の病原体にかえってかかりやすくなるという問題点があることが分かってきました



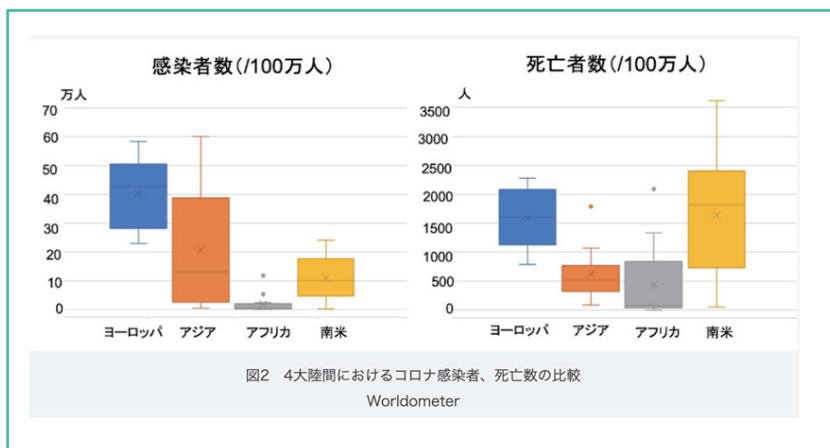
た。特にコロナワクチンに関しては、頻回に接種するとコロナウイルス自体の感染も増やしてしまうことが分かってきました。

そこで、BCGに注目してBCGの接種歴とコロナの感染率、死亡率の関係を調べてみました。これはワクチン接種が始まる前の2020年において、BCGを接種した国と接種していない国の感染率と死亡率を比較した結果です(3P下図)。BCGには何種類かありますが、日本で使われているBCGは東京株です。もともと、アメリカやイタリアはBCGを打っていません。イギリスやドイツも20年前からBCGを打つのをやめています。感染率も死亡率も、東京株を打っている国は、打っていない国に比べたら100分の1以下です。

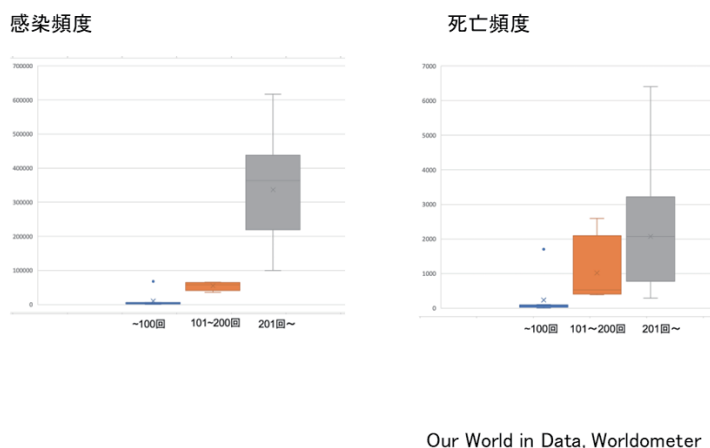
2020年の頃は、ファクターXがあるので日本はコロナ感染から守られているのだと言われていました。いつのまにか、誰もファクターXのことを言わなくなりました。ワクチン接種が始まった2021年から2023年における、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、南米諸国の感染者数と死亡数を比較したところ、アフリカ諸国が、感染者数も死亡数も圧倒的に少なかったことがわかりました。パンデミックの初期の頃は、アフリカ諸国はワクチンが打てないから、これから阿鼻叫喚になって大変なことになると言われていました。振り返ってみると、何もしなかったアフリカ諸国が一番、上手くやったのです。アフリカ諸国はワクチンを一番打ちませんでした。

次に、アジアの12か国に限って、ワクチンの接種回数が100回以下、200回以下、201回以上の国に分けて比較してみました。するとやはり感染率も死亡率も、201回以上の国が高いことがわかりました。

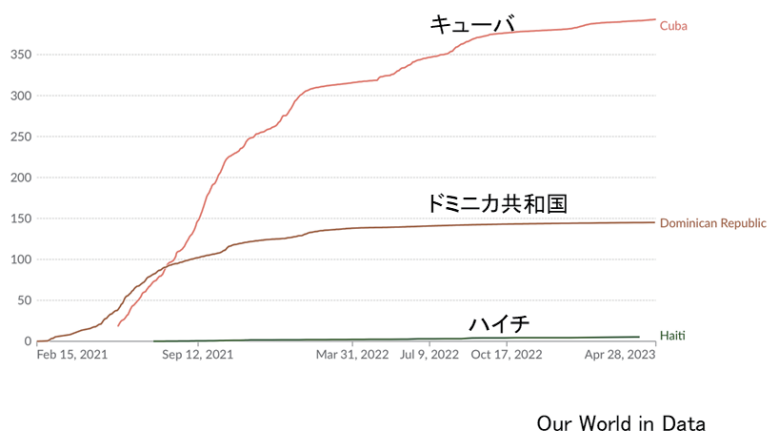
日本はこの201回以上の国の中でも一番、多く打っています。ワクチンの接種とコロナ感染との関係がよく分かるのがカリブ海諸国です。カリブ海にはキューバ、ハイチ、ドミニカがあります。みんな人口が1千万人程度の国です。ところがコロナへの対応が、3カ国で全然違っていま



ワクチン総接種回数による感染頻度と死亡頻度の違い



100人あたりのコロナワクチン接種回数

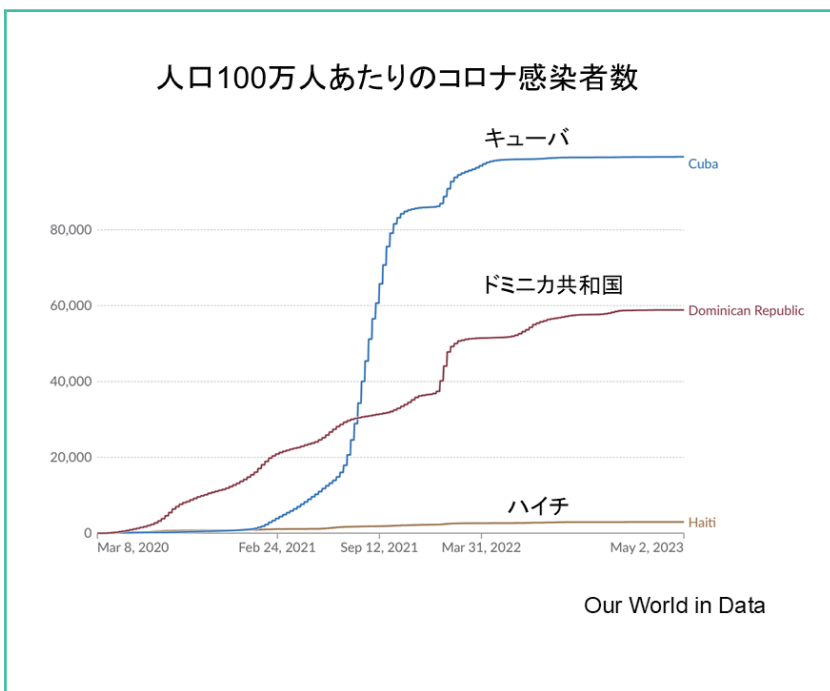


した。キューバは日本と同じくらい、世界で一番、一人あたりワクチンを打ちました。隣国なのにハイチはほとんどワクチンを接種しませんでした。ドミニカはその中間でした。それでどうなったか。

コロナの感染者数はワクチンを一番打ったキューバに対してほとんど打っていないハイチが30分の1以下でした。ドミニカはその中間です。ワクチンを打てば打つほど感染者数が増えています。死亡数についても同じことがみられました。ハイチはPCR検査をやらなかったから感染がわからなかったのではないかとよく言われます。そこで超過死亡を調べましたが、同じような結果でした。

この4年間にコロナワクチン接種がこの国に何をもたらしたかを、国や専門家がいろいろと言っていますが、データに基づいて検証すると疑わしいことが多くみられます。公開されたデータは嘘をつきません。マスメディアが伝えないことがもっと恐ろしいです。こういう時代で自分や家族を守るためには、国や専門家がいうことを鵜呑みにしないで、自分できちんと調べることが必要です。今回示したワクチンのロットと予後との関係をここまで詳しく調べた報告は、まだ世界でもありませんが、一般市民が情報開示を請求したことで明らかになりました。全国の数カ所の自治体で同じような結果が出れば、まず、間違いないと思います。

日本は、国や専門家の意見に従い、国民の80%がコロナワクチンを接種しました。100兆円を超えるコロナ対策費と60万人に達する超過死亡を記録したのにもかかわらず、現在も、コロナの流行が終息していない世界でも数少ない国です。結局、ワクチンの接種はわが国に何をもたらしたのでしょうか。今こそ、コロナに翻弄されたこの4年間に、国や専門家が、国民に語ってきたことを検証する時期ではないでしょうか。(おわり) (こじま せいじ) ※ 2024年10月13日(東京)での講演より



あとがき

子宮頸がんワクチンは2013年4月1日に予防接種法の対象疾病に認定、定期接種A類となりました。この時から十代の女子に接種が始まったのです。その直後から失神や疼痛、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)やギランバレー症候群、記憶障害、倦怠感などの訴えが多発しました。厚労省はその年の6月13日に「積極的勧奨」の中止を決定しました(その後、コロナ禍の2022年4月に再開。男子にも接種を勧奨)。被害

者らは立ち上がり、2016年夏、東京、名古屋、大阪、福岡で集団訴訟を提訴しました。最近、わたしはその傍聴に通っています。被告側専門家の証人尋問が続き、被害者の症状は「気のせい」「思春期には誰にでも出る」と証言しています。戦後の予防接種・薬害裁判で繰り返された映像を見ているようです。マスメディアはこの訴訟をほとんど無視。お近くにお住まいの方、是非、傍聴に出かけてみてはいかがでしょうか。(S)

お問い合わせ・お申し込みは

〒606-8186
京都市左京区一条寺南大丸町9-203
携帯 090 (5642) 2308
E-mail shikatasatoshi@gmail.com

入金先

ゆうちょ銀行 郵便振替口座 01080-6-42151
(当座 一〇九店 42151)
三菱UFJ銀行出町支店(普通) 4008047
名義 ロシナンテ社